



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

研修名 3年経験者研修 授業充実研修Ⅰ

平成29年5月19日（金）実施

概要

教員としての自覚と経験に応じた授業及び学級経営等の指導力と実践力の向上を図るとともに、教員として資質・能力の向上を図る。

研修 「授業づくりの充実に向けて ～育成すべき資質・能力を育むための授業改善～」

講師：高知県学力向上総括専門官 齊藤 一弥 氏

① 三つの柱の資質・能力の分析

- ・ 育成すべき資質・能力の三つの柱（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう人間性）からゴールを描き直す
- ・ まとめ→思考対象→問い→課題を再認識する

② 問題解決の過程の質的見直し

- ・ 実生活や身の回りの事象を観察し、既習を活用する
- ・ 授業で得た知識や技能を活用すると便利だと実感できる場面を設け、日常に算数を活かしていこうとする子どもを育成する

③ 内容の質的変革への指導の充実

- ・ 数学的に問題解決する力を育てる
- ・ 算数で学習したことを日常に活用することのよさを感じ得る
- ・ 試行錯誤して最後まで追求める態度を育てる

問題解決の質を保证するための文脈（コンテキスト）を描く～齊藤先生の模擬授業から考える～

① 日常生活の事象を共通の課題（めあて）に仕立てる

新幹線に23人ですき間をつくらず、仲良く乗る座り方は？
【めあて 2の段と3の段の組合せで23をつくる】（小2 算数）

算数を創り出すことの楽しさを実感

② めあてを考えるうえでの「条件」を整える
・ 2の段と3の段
・ すき間をつくらない



④ 2列と3列を合わせたら5列になる…
だったら5の段でもできる！

数学的に考える力を育む
学びの文脈の共有

粘り強く学び続ける姿勢の育成

思考対象の焦点化
（どこに着目して考えを進めてほしいかを共有する）

新たな気づきを与える板書づくり

③	2列	$2 \times 1 = 2$	$2 \times 4 = 8$	$2 \times 10 = 20$	… 6 増えると
	3列	$3 \times 7 = 21$	$3 \times 5 = 15$	$3 \times 1 = 3$	… 6 減る（関数の考え）

深い学びへ…数の構成、計算のきまりの活用

- ・ 「まとめとしてどんなゴールを描いているか」から問いや指示を考える。文脈（コンテキスト）が大切！
- ・ 板書は思考ツールであり、表現ツールである。たかが板書、されど板書！

【受講者の感想】

- ・ 今回得たことは、「深い学び」となるためには、最初の段階で「条件制御」することも必要だということだ。教師側のねらいと、子どもの考えていることにズレが生じていると、ゴールにたどり着かず、身に付けたい力も付かないといわれ、今日の模擬授業を振り返りながら実感した。また、深い学びをめざすには、思考の流れを止めない板書づくりも大切だと再認識した。授業後、すぐには振り返りができないことも多いため、板書を写真で撮っていこうと思う。
- ・ 育成すべき資質・能力を育む授業改善として、学習展開を「まとめ」から描くという方法について学んだ。「まとめ」を変えようと思えば、問い、課題が自ずと変わってくるため、まずは、子どもの学びが深い学びとなる「まとめ」を考えるとところから 取り組んでいきたい。「授業のなかでは教師は子どもを刺激し続けていくべきである」という齊藤先生のお言葉を、常に心に留めて授業づくりに取り組んでいく。

目的 新しい学習指導要領に対応した授業実践をめざした研修を実施することで、英語科教員の授業力の向上を図る。

【講義】 「教科書を『読む、訳す指導』から、教科書を使った『発信型の指導』へ」

講師：関西外国語大学 中嶋 洋一 教授

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- ① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力等 ③ 学びに向かう力、人間性等

これらの資質・能力が身に付く授業をしなければならない！



チャイムが鳴ったときに、生徒が「え？もう終わり？」と言うような、脳がわくわくする“脳働”的な活動、それがアクティブ・ラーニングです！“study”と“learn”は違います。できるようになることが“learn”です。先生方は、学習指導要領の目標を達成できるような活動をしていますか。

教科書は「生キャベツ」学習指導要領は「レシピ」。素敵な料理（授業）にするために、しっかりと読み込んで、素材を生かしてください！

目の前のことだけを見る“River People” ⇒ ゴールを見据えて行動する“Goal People”

Goal People の教師

- ・ ゴールから逆算する
- ・ 生徒にしゃべらせている
- ・ 授業では「関わり」を演出する
- ・ 定期テストは学期の最初に構想する
- ・ 生徒ができないのは自分の責任と考える

Goal People の教師の授業を受けた生徒の発言

- ・ 「先生、なぜこれをするんですか」
- ・ 「先生、なぜこの答え方ではないのですか」
- ・ 「先生、もう少し考える時間をください」
- ・ 「すご〜い！へえ、そうなんだ」
- ・ 「大丈夫。ドンマイ。みんなで頑張ろう」

目の前の子どもたちに力を付けるために、しっかり手間暇をかける！

Goal People の授業

- ・ 本時のねらいを資質・能力で「～できる」と設定する
- ・ 「何のため（目的）」を伝える
- ・ 直接的にねらいに迫るよう特化して指導する
- ・ 生徒に考えさせる
- ・ 生徒に自分の考えを言わせる
- ・ できたかどうかを確認する活動を用意（ねらいとセット）
- ・ 今日の学習で分かったこと、不思議に思ったことは？

授業のラストに、本当に“learn”したか(学んだか)確かめられる活動を仕組むことが教師の仕事！

★ 教科書を使った指導の具体例 ★

① ベーシック・ダイアログを使って

内容を読み取り、場面や状況を考えた質問をする活動例) Sunshine 2 PROGRAM 5-② 開隆堂 から

A: I called you around six.

B: Sorry. When you called me, I was sleeping in bed.

A: Oh, were you? Were you sick?

B: No. I was just tired.

Q 1 最初のAのセリフはどんなふうに言えばよいか (ちょっと怒った様子で)

Q 2 最後のBのセリフにどんな文を付け加えたらよいか (So why did you call me?)

② 教科書の本文を使って

- ・ 行間を読み、本文に英文を付け足していく活動
- ・ ダイアログをモノログに書き換える活動
- ・ 「30語」等と語数制限を設けて本文を要約する活動

★ 「やりとり」の活動の具体例 ★

① セマンティック・マッピング

ペアで質問し合い、情報をマッピングしながら会話を継続させる活動（3、4分の時間を設定して行う）

② チェーン・レター

4人グループで、四つのテーマについて紙上ディベートを行う活動、一周すると四つのテーマについて四つの立場で考え、英文を書く活動になる

【受講者の感想】

- ・ 毎回思うが、中嶋先生の言葉の一つひとつに意味があり、情熱をもって教師としてめざす方向性を私たちに示してくださっていると感じる。私たちが教えることで身に付けさせる「知識・技能」と、授業のなかで場面設定を行い継続的に身に付けさせる「思考力・判断力・表現力」の違いも明確になった。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。